

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

弁護人角田俊次郎上告趣意について。

本件のごとく、物價統制令第三条違反の行為があつた後に、同令に基き價格等の統制額を指定した物價庁告示が廃止されても、舊刑訴三六三条にいわゆる「犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廃止アリタルトキ」にあたらないことは当裁判所の判例の示すところである。（昭和二三年（れ）八〇〇号同二五年一〇月一日大法廷判決）されば論旨は理由がない。

よつて、刑訴施行法二条、舊刑訴四四六条に従い主文のとおり判決する。

右は全裁判官一致の意見である。

検察官松本武裕関与

昭和二六年二月一六日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎